

「常磐地区にこうして集まる場所ができてうれしいよねえ」。富岡町からの避難者の女性の言葉に、浪江町からの避難者である女性がうなずきます。ここは、福島県いわき市常磐湯本温泉。七月九日、老舗温泉旅館古滝屋のロビーが、色とりどりの色紙の花で飾られ「常磐地区コミュニティサロン」が誕生しました

写真。

交流サロンは、すでにいわき市に数カ所設けられています。一昨年十一月から小名浜地区内のショッピングモールに設けているサロンでは、いわき市の津波被災者や双葉

## 東北復興日記

50



NPO法人  
ザ・ヒール理事長  
吉田恵美子さん

郡からの避難者、地域住民の区別なく共に集い仲間づくりのできる場づくりを進めてきています。月に七百人近くの方が足を運び、スタッフの

## 旅館ロビーが交流の場

郡からの避難者、地域住民の区別なく共に集い仲間づくりのできる場づくりを進めてきています。月に七百人近くの方が足を運び、スタッフの

ふ参加者もいらっしやっ。県営や民間のアパートにばらばらに住んでいることで、仮設住宅に住む避難者に比べて孤独感を深めているといわれています。

震災から時間が経過したことで、「復興の掛け声の陰で、将来が見えないままの自分たちは取り残されているような気がする」と話される避難者が少なくありません。

また、二万人を超える避難者と受け入れ地域の住民との間のあつれきもだんだんと深くなっています。

温泉旅館のロビーからお客さまの姿が消える午後早くの時間に開設される、交流サロン。月二回の時間限定のものではありますが、ここが地域の中で孤独感を深めている避難者と地域住民をつなぐ結節点になることが期待されています。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。